

## 会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号)	令和3年度すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会 第1回「予防・健康部会」		
開催日時	令和3年5月13日(木) 午後1時半～3時			
開催場所	墨田区役所12階 121会議室			
出席者数 (16人)	<p><b>【外部委員】</b>          公益社団法人墨田区医師会副会長 福井 一人(部会長)          公益社団法人東京都向島歯科医師会 公衆衛生担当理事 木津喜 広          一般社団法人墨田区薬剤師会副会長 浅尾 一夫          株式会社ルネサンス ヘルスケア事業本部 健康経営企画部 部長 樋口 毅          すみだ地域栄養ネットワーク 里見 真悟          帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授 福田 吉治</p> <p><b>【庁内委員】</b>          保健衛生担当副参事 平山 千富(副部会長)          国保年金課こくほ庶務係 係長 檜垣 雅之          国保年金課後期高齢者医療資格・給付担当 主査 横張 由美          スポーツ振興課スポーツ振興担当主査 覚張 達也          生活福祉課医療係長 高山 秀樹          高齢者福祉課地域支援係 係長 内田 瑞穂          保健計画課健康推進担当主査 谷口 達也          保健計画課健康推進担当 古川 理恵          保健計画課健康推進担当主査 古谷 米子          向島保健センター保健指導係長 佐久間 陽子          道路公園課計画調整担当 飯島 洋平</p> <p><b>【事務局】</b>          保健計画課健康推進担当 松本・小林          株式会社ルネサンス</p> <p><b>【欠席者】</b>          保健計画課健康推進担当主査 乙社 克彦</p>			
	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる)		傍聴者数	なし
	非公開(傍聴できない)			
議 題	1 開会 2 保健衛生担当副参事 挨拶 3 作業部会委員紹介 4 議事 (1)「すみだ健康づくり総合計画」改定の概要 (2) 区の状況・基本目標 の課題・考え方 (3) 基本目標 ・基本施策の方向性について (4) その他			

配 布 資 料	1 すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会「予防・健康部会」委員名簿 2 「すみだ健康づくり総合計画」中間改定の概要 3 すみだ健康づくり総合計画 施策の体系 4 令和3年度すみだ健康づくり総合計画中間改定の検討組織 5 すみだ健康づくり総合計画中間改定スケジュール 6 墨田区の状況と基本目標 に係る課題 7 基本目標 改定案 8 ご意見・ご質問シート <b>【参考】 すみだ健康づくり総合計画</b>
---------	---

会 議 概 要	1 開会 2 保健衛生担当副参事 挨拶 3 作業部会委員紹介 資料1に基づき、委員を紹介 4 議事 (1) 「すみだ健康づくり総合計画」改定の概要 資料2～5に基づき、概要を説明 (2) 区の状況・基本目標 の課題・考え方 資料6に基づき、課題の説明 (3) 基本目標 ・基本施策の方向性について 資料7に基づき、各基本施策の方向性について説明  - <b>生活習慣病の発症と重症化予防</b>  <b>【意見・質問等】</b> 福井委員：今後、健診や医療データを活用した健康づくりが進むと思うが、実践アクションという点で何か意見はあるだろうか。 檜垣委員：まず、特定健診は受診率が約50%で横ばいであることが課題。受診率を上げるため、はがきや電話、過去の受診結果の送付等により勧奨を行っているところである。また、受診履歴が無い方への受診勧奨は、訴えかけをしてもなかなか動きがなく、課題となっている。主な施策の中に「受診勧奨の実施」を追加してはどうか。 福井委員：主な施策に、受診勧奨の実施を追加しては、ということだったが、これに対して何かご意見はあるか。また、福田委員に伺いたいのだが、健診データや受診履歴をもとにして何に取り組んでいけば良いのか。
---------	--

福田委員：例えば、糖尿病の重症化予防などは行政だけでは改善が難しいところもあるので、地域連携をしながら進めていきたい。評価指標についても、年齢調整死亡率は都と比べてどうかを見ていきたいところである。

福井委員：国保から被用者保険に移る方も多い。区だけでデータヘルスを推進していても、働く世代の対象は減っていく。そのあたりも課題なのではないだろうか。

福田委員：産業医をうまく活用することができれば良い。また、墨田区国保の方とそれ以外の方に分けて明記できれば良いのではないか。

福井委員：高山委員は、生活保護受給者の生活習慣病の予防について課題と考えるところはあるか。

高山委員：やはり、生活保護を受けている方の健診の受診率上げたい。現状、コロナの影響で実施できないことも多いが、ケースワーカーが訪問し、健診の受診を促すという取組を実施している。

**- がん対策の推進**

**- 女性の健康づくり**

**【意見・ご質問等】**

福井委員：若年者の痩せの割合と健診・がん検診のことしか記載されていない。これに関しては、女性からの意見を是非伺いたいところである。

女性のQOLを下げる原因はやせとがんだけではないだろうが、私も更年期障害についての相談ができるようにするくらいしか意見ができない。女性委員の皆さんのご意見はいかがか。

平山委員：そもそも「女性の」と特化する必要があるのか。女性の健康に関しては、「やせ」も大きな問題であり、子どもにも影響が出てしまう。また、今は20代で出産することが若いという印象の世の中。出産する年齢は高齢化しており、出産後すぐに更年期に入る方も増えている。女性を取り巻く状況は変わっているので、ライフコースを意識した内容にしては。

古谷委員：訪問歯科診療を実施している中で、骨粗鬆症・膝の関節症からの要介護により、外出困難な方が多いと感じる。骨密度について、女性の健康づくりの項目で食事や運動からのアプローチは行わないのか。女性の健康問題については、がんややせだけではなく、幅広い視野が必要だと思う。

福井委員：のちほど、食事についての議題もあるので、まとめていく。

福田委員：先程、平山委員も言っていたが、そもそも「女性の」「男性の」と分ける必要はあるのか？女性特有のテーマなどの場合、がん問題 健康問題として振り分けても良いのではないか。それはそれで新しいことになる気もする。

浅尾委員：主な施策に骨密度測定とあるが、あまり測る機会はないと思う。区内には約10か所の「健康サポート薬局」があり、簡易的であるが、骨密度計や体組成計を置いている。健康に関するイベントも行っているの、地域で情

報共有等が気軽にできれば、と考えている。

福井委員：健診の受診率については、課題ではある。区民の皆さんの自発性を高めるようアイデアが何かあれば良いのだが…。墨田区の現状があまり良くないということ伝えるだけでも効果があるのではないか。

- 健康的な食環境づくり

- たばこ・アルコール対策

【意見・質問等】

福井委員：食のことなので、すみだ地域栄養ネットワークの里見委員からご意見を伺いたい。

里見委員：栄養指導を行っている、コロナ禍においての中食・外食の普及を感じる。中食は決して悪いというわけではなく、うまく飲食店を選ぶ・うまく内容を選ぶことが大切と感じている。また、実践しやすい環境づくりも重要である。

お酒やたばこに関しては、危険性を認識してほしい。しかし、何かきっかけがないと見直しをすることは難しいので、健診の受診がきっかけになるのではないかと。若年層であっても積極的に生活の改善を行ってくれる方もいると思う。

福井委員：実際に飲食店に対し、「塩分を減らしてください」といったお願いは可能なのか。イギリスでは、「国レベル」でパンに入っている塩分を徐々に落とし、減塩に取り組んでいると聞いている。

事務局：実際に、足立区では野菜を多く使用した料理を提供する飲食店を登録し、区ホームページなどで紹介している。北陸でも実例があって、減塩の取組を実施している。これらを参考に、コロナ禍での中食普及をうまく行っていきたい。

里見委員：栄養指導においては、「これを食べたほうが良いですよ」、「このように摂ったら良いですよ」というように声掛けしている。同様に、たとえば骨密度を高めるための食事についてPRすることも可能なのではないかと思う。

福井委員：たばこ・アルコールに関してだが、たばこに関しては、「たばこ部会」という会議体を設け、がん対策を含めてしっかりやっている。

薬局では、健康サポートや禁煙サポートなどの活動をされているかと思うが、実践アクションがあれば、教えていただきたい。

浅尾委員：禁煙サポート薬局は、約3割の薬局で協力させていただいているが、現実的にはまだ少なく進んでいない。今後数を増やしていきたいと考えている。

- 身体活動・運動の推進

- 休養・こころの健康づくり

【意見・質問等】

福井委員：休養・こころの健康づくりについては、睡眠が重要視されているが、やはり運動も大切だと思う。2つ( )をまとめた形で、働く世代を中心にスポーツや健康経営に携わっている樋口委員からご意見を伺いたい。

樋口委員：企業や自治体の健康づくりをしていると、コロナ禍において運動の実施率が下がっていることを実感する。通勤機会が減ったことにより、日常の通勤で維持されていた運動量が下がってきている。

あわせて、在宅ワークが広がることで、(体を動かす)通勤時間がスマホやPCの使用時間になってしまっており、更に睡眠の質が低下していると考えられる。

また、健康経営の観点から意見を申し上げると、墨田区内企業の健康経営の推進率があまり高くないという実態がある。ただ、熱心に取り組んでいる区内企業もあるので、女性の健康問題については、こうした企業にヒアリングを行うのも手ではないか。企業との連携や、企業内での活動の普及も同時に行わないと施策の手が足りない状態。

福井委員：コロナ禍において、区民のこころや体の健康にはどのような影響があるのか、どのような取組が必要なのか、日ごろ区民と接する機会の多い佐久間委員にお伺いしたい。

佐久間委員：コロナ禍のため、区民の方と接する機会が減っている。様々な世代へアクセスするツールの検討が必要であると感じる。

- 歯・口腔の健康づくり

- フレイル予防の推進

【意見・質問等】

木津喜委員：コロナ禍において、歯に関するイベントは減少してしまっている。

以前は積極的に行っていたので、興味を持っていただけるよう様々な取組はしているが、興味のある人しか参加していただくことができない。

また、成人歯科健診は5年おきが対象となるため、忘れがちになってしまい、受診率が低い。受診率の向上を項目にぜひ入れていただきたい。

オーラルフレイルの普及啓発も重要なので、舌圧計を用いる等一般の方に興味を持ってもらう仕組みを考えていきたい。

福井委員：フレイル予防に関してはいかがか。

樋口委員：フレイルに関しても、在宅ワークの増加に伴い、(運動機能が)低下傾向にある。引きこもりの高齢者も含め、より運動知識を高め、二次健康被害を防げるよう、「コロナを正しく恐れる」ことが大切。

また、コロナにより、65歳以上の従業員を増やす取組を行っている企業も多い。職域の情報をキャッチして、地域に還元しても良いのでは。

里見委員：フレイルにおいては、高栄養補助食品の活用も大切。高齢化に伴い、食欲が低下した方のために、ドラッグストアや薬局などと連携し、高栄養補助

	<p>食品の紹介を行っている。</p> <p>浅尾委員：フレイル予防ということでは、薬剤師会でも6月1日からの1週間、「薬局へいこうウィーク」を開催し、薬局を訪れた方にロコモチェックを行い、ロコモティブシンドロームの早期発見、予防啓発の働きかけを行っている。このような取組は今後も行っていきたい。今の薬局は、調剤専門のようなイメージがあるので、国が制度化している健康サポート薬局や地域連携薬局のように立ち位置をしっかりと示していくことが課題である。</p> <p>福田委員：最後に3点ほど申し上げたい。1点目は、全体的にライフコースの考え方がもう少し示された方が良い。各対策でライフコースあるいはライフステージでどういうことができるのか、どこのステージが重要なのか示すと良い。2点目は、それぞれの取組で、特にターゲットとなる集団が示されると良い。これは、健康無関心層、SDGsでの「だれも取り残さない」の考え方に通じるものである。最後に、ナッジの考え方を取り入れるとさらに良い。</p> <p>福井委員：以上をもって、本日の議事はすべて終了とする。</p> <p>(4) 閉会</p> <p>平山副参事：今後、皆様のご意見を踏まえて計画案の改定作業を進め、次回の作業部会でさらにご意見を頂戴したい。今回の会議において、追加のご意見、ご質問などあれば、事務局までご連絡を賜りたい。以上をもって令和3年度「すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会 第1回『予防・健康部会』」を終了する。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">会議の概要は以上である。</p>
所 管 課	福祉保健部 保健衛生担当 保健計画課 健康推進担当 (内線 3532)